

令和7年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立萩中小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・題材を工夫することで、英語で伝えたいという児童の意欲を引き出すことができた。
- ・ALT を活用して、音声を十分に聞かせたことで、新出表現の理解が進んだ。

(2) 課題

- ・書くことの領域において目標値を下回った。書くことに苦手意識をもつ児童への支援が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果
第6学年	目標値より↑	(第5学年時)

(2) 分析（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○「聞く」「読む」ことは、基本的な表現についておおむね理解していた。 ○「書く」ことは、大文字と小文字の区別に課題がある。	○日常生活に関する対話を聞き、目的や場面、状況などを推測する問題や、短い物語を聞き、話の概要を捉える問題の正答率が高い。	○伝えたい内容があっても書くことに課題がある児童が多いと考えられる。書くことに苦手意識をもたせない工夫が必要である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○具体物を示しながら説明したり、繰り返し音声を聞いたり、話したりする活動を行うことで、基本的な表現を使って活動ができるようにする。 ○歌やチャンツを多用し、文字に親しませる。	○自分のことを相手に伝えるための工夫を考えたり、アイコンタクト等のリアクションを用いたりして相手に伝えることを大切に活動ができるようにする。	○既習事項を使って会話ができるように、復習の時間を毎時間の最初に設け、理解を定着させる。会話の中で既習事項をすすんで活用し、英語を使った会話を続けようとする態度を育てる。 ○休み時間の英語カフェを活用し、外国語に楽しむ機会を設ける。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○書く時間をより多く設ける。アルファベットを書く時には、四線を意識させて文字指導を行う。 ○会話のやり取りをする時間をより多く設ける。会話のやり取りをする前には手本を示し、既習事項が活用できるかどうか考えさせる。	○単元末の発表を繰り返す行うことで、表現力を高めていく。工夫の仕方や、内容を選ぶポイントを考えさせ、思考しながら発表ができるようにする。 ○自分が伝えたいことを、既習表現を使ってどのように伝えることができるのかを考えさせる。そうすることで、新出表現だけでなく、既習事項も活用しながら会話のやり取りや発表ができるようにする。	○英作文を単元のまとめだけでなく、毎回の授業で取り入れ、少しずつ書いて単元が終わる時に完成させるようにする。そうすることで、児童が単元末に向けて見通しをもち、内容を調整しながら英作文を書けるようにする。 ○休み時間の英語カフェを活用し、外国語に楽しむ機会を設ける。